

社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役社長 稲垣良次

2024. 1
No.365

新年あけましておめでとございます。

今年辰年です。(私は年男になります)

『辰年』をネットで調べてみました。

辰は十二支の中で最も縁起の良い干支と言われており、様々な願いを叶えてくれるだけでなく、あらゆる物事を良い方向へ導いてくれる力があるとされています。

辰年生まれの方は、どんな性格？(これもネット検索)

と言いますと、辰年生まれの方は先見の明があり、人の先を行く人です。周りには多くを語りませんが、スケールの大きな夢を持っています。マイペースで我が道を行く性格で、掴みどころのない人だと思われることが多いです。活動的で行動力があり、人との出会いも沢山経験します。

私の性格と似た所があるように思いますが、先ずは、前向きに明るくポジティブに考えたいと思っています。どうか一年間宜しくお願ひいたします。

最近思うこと

(セクシヨナリズム・利己主義)

「利他の心」と相反することが。ちよこちよこ我が社に起こっているような気がする。

それは例えば、ある特定の人に残業が集中している。

係を越えて、課を越えての助け合いが薄らいできている。なぜか、ある人が言っていた言葉が少し気にかかる。それは、自分が人に仕事を頼むと、頼まれた時にやらなくてはならなくなる。

だから無理をしても自分が抱え込み、やろうとしてしまう。この考え方は「美しい」だろうか。もっとオープンにして「助け」を求めれば良いのではないか。

それを察してあげる。それを気持ち良く受け入れる。そんな空間が利他で言う「美しい心」ではないでしょうか。

修行僧の雲水が老師に問うた話

(稲盛和夫「考え方」より)

「地獄も極楽も外見上はまったく同じような場所だ」と答えます。

どちらにも大きい釜があって、そこにおいしそううどんがぐつぐつ煮えている。ただし、うどんを食べるには、物干し竿のような長い箸を使うことになっています。

地獄界に落ちてきた人たちの場合には、みな利己的な心の持ち主ですから、「オレがオレが」と、我先に食べようと、釜のなかにいっせいに物干し竿のような箸を入れて、うどんをすくい上げようとしますが、あまりに箸が長く、うまくつかめません。そのうちに、互いに相手が見つかもうとしたうどんを奪おうと争いになり、うどんは飛び散るばかりで、一向に口に入りません。運よくうどんをうまくつかめたとしても、

とても自分の口まで運ぶことはできません。結局、誰もうどんを食べることができません。それが地獄の光景です。

一方、極楽では、条件は同じですが、非常になごやかです。みんな優しい思いやりの心の持ち主ばかりですから、自分のことを先に考えるのではなく、自分の長い箸でうどんをつかむと、「お先にどうぞ」と言っておいて、釜の向こう側にいる人に先に食べさせてあげる。すると、向こう側の人も「ありがとう。今度はあなたの番です」と言い、同じように食べさせてくれます。だから、物干し竿のような箸を使っても、お互いに感謝を述べあいながら、和気あいあいと食べることが出来ます。

阿鼻叫喚あびきょうわんのちまたと化している地獄と同じ環境、同じ条件、同じ道具立てなのに、極楽では全く違う様相を呈しています。それはまさに、そこにいる人の心の状態の差だけと言ってもいいと思います。

それは現実世界でも同じです。「自分さえよければいい」という利己の心をむき出しにして世間を渡っていけば、必ず軋轢おんりくが生じ、さらに悪い方向へと自分を追いやってしまいます。そうした利己の心を離れ、まず自分から思いやりの心で周囲に接するようにする。一人ひとりがそうした「利他の心」を持つことで、潤いのある平和で幸福な社会が築かれていくはずですし、一人ひとりの運命も好転していくはずですよ。

イナテックの企業理念の中にもあるように「フェイス to フェイス」「ハート to ハート」で行動することにより、「利他の心」が生まれ育ち、気持ちのよい社風ができるのではないでしょうか。そして、それを継続することが利他で言う「美しい心」に繋がるものと考えています。

社員の皆様とその御家族の幸せづくりのためにも努力を続けます。

「利他」元年の年として再出発いたしますので、宜しくお願いいたします。感謝。

※阿鼻叫喚

地獄に落ちた亡者が、責め苦に耐えられずに大声で泣きわめくような状況(Boo辞書より)

菜根譚後集

九六

理寂則事寂。遺事執理者、似去影留形。心空則境空。去境存心者、如聚羶却蚋。

本体の理が空寂であれば、当然、現象の事も空寂である。それなのに事を捨てて理を固執することこだわる者は、影を取り去って形を残そうとするようなもので、不可能である。また、本心が空寂であれば、当然、外境も空寂である。それなのに外境を捨て去って本心だけを温存しようとする者は、生臭い肉を集めておいて集まりたがる蚊やぶよの類を追い払うようなもので、全く無益である。

社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役社長 稲垣良次

2024. 2
No.366

今年から毎朝20分間清掃再開

再開のきっかけは、残念ながらお客様の評価でした。「最近のイナテックさんは何か方向性が違ってきているみたい。現場が荒れている。」というアドバイスをいただきました。その原因を考えていたら、次の記事を見つけた。

清掃の時間や回数を減らす、使いにくい道具を使い続ける、清掃道具をメンテナンスしないなど、「とりあえずこれでいいか」の対応はNG。

一時的にコストは下がるものの、美観を維持できないため、後々まとめて清掃しなければならず大きな負担になったり、お客様や従業員が不快な気持ちになったり…。

さらに、使いにくい道具や効率の悪い方法での清掃で、作業する従業員のストレスにつながるなど、さまざまな面でマイナスになります。人件費が上がり続ける状況の中、短い時間で少ない手間でキレイを維持するなら、「汚さない・汚れを取るための効率的な道具」「作業方法」「清掃にかかる時間」の3つの軸で見直すことが重要です。

NGコストカットで低下する3つのこと

- 1 美観が悪くなる。
- 2 効率が低下する。
- 3 従業員のモチベーションが低くなる。

まさにイナテックに当てはまりました。コロナ禍の中、非常事態だったこともあり、清掃時間を短縮し生産の時間にしたり、汚れた中で技能員の方々に仕事をお願いしたこと、誠に申し訳なく思っております。

そして今は、もう一度「おそうじ」をイナテックの企業理念の中での位置づけも考えながら、イナテック社員の人たちが腹落ちしていただけるよう、企業理念の整理をいたしております。

つまりイナテックの再出発と言ってもいいと思っております。今後は二度とブレないように考え方を浸透させ、皆でイナテック最上位概念である『社員の質的生活向上・家族の幸福』を実現すべく努力いたしますので、皆様のご協力をお願いいたします。

もうやめよう「ルールですから」

イナテックの職場には色々な標準書(ex. 外観検査要領書、作業標準書、作業手順書、安全規則、○○規定、○○基準書等々)が

やってはいけないコストカット

(ダスキン ビズより)

「これでいいか…」とりあえずのコストカットは失敗する！

存在します。それは、本当に守れる、守りやすい標準書でしょうか。

管理者やスタッフが責任のがれのためのものになっていませんか。皆さんは責任のがれというより、真剣にまじめにやった結果が非常に項目の多い、複雑なルールになってしまっているのだと思っています。

もう一度、今一度、『このルールは何のため？』『このルールの目的は？』『このルールの狙いは？』『これらを考えてみませんか。』

この2月の厳冬の中、感染症予防のために窓をフルオープンにしています。それを聞いてみると「ルール」ですからという答え。

そのフルオープンは、科学的に本当にそこまでせねばならないのでしょうか。窓を一日中開けエアコン暖房をフル回転させる。この換気の目的は「感染予防」なのです。

当社の窓枠を見て下さい。「すき間」だらけですよ。充分ではないですか。それよりも、「手洗い」や「うがい」をこまめにやった方が予防になると思いますが、いかがでしょうか。そして皆さんの各ご家庭で窓をフルオープンにして換気してみえる方はいますか。

もう一度考えてみて下さい。その「ルールは何の目的」ですか。それを考えればもつとシンプルな答えが返ってくると思います。

そしてオペレーターの方々や技能員の方々、スタッフの方々ももつと楽にいい仕事ができるのではないかと私は考えています。これからは『このルールは何のため』『このルールの目的は何か』を合言葉にして、ルールを軽くしましょう。お願いします。

懸命

(稲盛和夫「考え方」より)

人は追い込まれ、

もがき苦しんでいるなかでも、

直撃を態度で物事にぶつかっていくことで、

ふだんでは考えられないような力を

発揮することができます。

苦難に挫けず、前向きに必死に働いたことで、今日の自分があることに気づき、一生懸命働くことの大切さを痛感します。

人は追い込まれ、もがき苦しんでいるなかでも、真摯な態度で物事にぶつかっていくことで、ふだんでは考えられないような力を発揮することができます。

そして、その努力の向こうには、自分でも想像できないような、素晴らしい未来が広がっているのです。

現在のイナテックグループは、まさに「苦難の連続」なのです。「二社依存経営体質が危険だ」ということは10年も20年も前より語ってきた事ですが、人間(私自身)は弱い者です。実行できなかったのは事実です。

今、「100年に一度の大変革期」に差し掛かって本腰を入れるようになったわけです。(日経新聞 昭和99年の反撃)今でもギリギリ遅くはないと考えています。ここで大切なのが『真摯な態度』です。

「真摯」とは、真面目さ・誠実さ・熱心さです。

営業2部を始めとし、我がグループ社員全員がそれに向けて「懸命」に努力し結果を出すしかないと考えています。「ピンチはチャンス」なのです。人はピンチが来ないと出来な

い者かもしれない。今でも遅くはない！皆で生き残りを賭けた勝負に出ようではありませんか。

よっしゃ！やろう、やってみせよう！

菜根譚後集

九七

幽人清事總在自適。故酒以不勸爲歡、棋以不爭爲勝、笛以無腔爲適、琴以無絃爲高、會以不期約爲真率、客以不迎送爲坦夷。若一牽文泥迹、便落塵世苦海矣。

山人の風流ごとは、すべてわが心にかない悠々自適するのが大切である。そこで、酒はむり強いしない方が飲を尽くし、碁はけんか碁でなく争わない方がすぐれていて、笛は音律のない方がよく、琴は無絃の方が高尚で、会合は日時を約束しない方が飾りけがなく、お客は送り迎えしない方が気楽である。そうではなくて、もし世間並みに形式にこだわり慣例にとらわれ出すと、それこそ、せっかくの風流も浮世の苦海に逆もどりしてしまふ。

社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役社長 稲垣良次

2024. 3
No.367

自燃（じねん）

（稲盛和夫「考え方」より）

一生（一所）懸命に働くということは、苦しいことです。

その苦しいことを毎日続けていくには、

自分の仕事を好きになろうと

努めることが必要です。

仕事を愛し、仕事に喜びを見出せる人が、

成功を収めることができるのです。

仕事は決して楽（らく）なものではありません

ん。どちらかと言うと、つらいこと、トラブル

の連続、部下の家庭問題、同僚同志のいがみ

合い等々、毎日が問題・大問題の連続なので

す。

しかし、それが解決した時、対策が出来て
一歩自分が成長した時、知らないことを発
見した時など、考えようによってはいい事、楽
（たの）しい事変わっていくわけです。それも、
自分自身がどのように自分のスイッチを切り
替えられるかだと思っています。

心に火をつけるのは自分自身

（稲盛和夫「考え方」より）

人間は、自ら燃えていく可燃性の人と、

火を近づけると燃える可燃性の人、火を近

づけても燃えない不燃性の人の三つに大

きく分けられます。

可燃性ならまだしも、不燃性の人はロマ

ンティストの対極の存在です。ロマンティ

ストは自ら燃え上がる可燃性の人でなけ

ればなりません。

社員の皆さんへのアドバイスです。可燃性の

人、せめて可燃性の人になって下さい。

イナテックでは、「企業理念の勉強会」

「朝の20分間おそうじ」 「社内木鶏会」
等々、色々な社員の皆さんに、ポジティブに
生き、プラス発想できる人材育成もしており
ます。

社内木鶏会は、役職を越えて、イナテック
に集う人が「美点凝視」の精神でお互いがお
互いの素晴らしいところを見つめて認め合う、
そしてお互いがお互いを尊重しつつ、ともに
人間的に成長することであり、企業理念を
探求する場であります。

このような機会を利用して、可燃性・可燃
性の人になって、豊かな人生を進んで欲しい
と願うものです。

何かをやり遂げるためにはたいへんな

エネルギーが必要です。そしてそのエネル

ギーは、自分自身を励まし、燃え上がらせ

ることで起こってきます。人から言われた

から、命令されたから仕事をするのではな

く、言われる前に自分からやろうという積

極的な人が、「自ら燃える人」です。

では、自分が燃える一番よい方法とは、

何でしょうか。それは仕事を好きになるこ

とです。「惚れて通えば千里も一里」という言葉があるように、好きになれば苦勞など感じません。嫌々やっている、どんなことでも、つらく感じるものです。

仕事を好きになることで、どんな苦勞の最中でも、「一生（一所）懸命に打ち込んでみよう」と気持ちを前向きに切り替えることができます。全力を打ち込んでやり遂げれば、大きな達成感と自信が生まれ、次の目標へ挑戦する意志が生まれます。その繰り返しのおかげでさらに仕事を好きになり、ますます努力を惜しまなくなり、素晴らしい成果を上げることができます。

イナテックでも同じです。EV（電気自動車）化に対しても、2030年には60%がEVになるとしていた情報も、今では世界中で疑問の意見が続出しています。つまり、今までのトランスミッションやHV・PHVがまだ存在するという情報に変わってきております。苦勞に苦勞を重ねてきた今までの技術が今もう一度見直されてきているのが、HV・PHV技術なのです。

インフラが整っていないのが世界中の現状なのです。これからもEV化の波は押し寄せて

きますが、もつと仕事を好きになり一所懸命頑張れば、必ず成果を上げることができると思っています。

また、イナテック営業2部の皆さんも試作開発部の皆さんも、自動車以外の分野に出して効果・結果も出てきております。

昨今のダイハツ問題、豊田自動織機の問題によつて、我々の近くの会社さんの中でも、一社依存のため影響が大きい話を聞きます。

悲惨なものです。まだ私共のお客様は問題ありませんのでとりあえず良いのですが、いつダイハツさんや豊田自動織機さんのようになるともかぎらないのです。

改革（ロボット化・自動検査化）は早急に必要ですが、今の技術をもつと深化・進化させれば、すばらしいイナテックになると思っております。

イナテック『行動指針』

良い考え方と人生の哲学を持ち
美しい心を磨く。

『人生の哲学』

- 一、嘘をついてはいけない
- 二、人に迷惑をかけてはいけない
- 三、正直であれ
- 四、欲張つてはならない
- 五、自分のことばかりを考えてはならない

イナテック社員の皆さん！迷ったら、問題が起こったら、この「人生の哲学」に戻って下さい。必ず迷いは取れるはずですよ。
明日に向かって頑張らしましょう。

菜根譚後集

九八

試思未生之前、有何象貌、又思既死之後、作何景色、則萬念灰冷、一性寂然、自可超物外遊象先。

試みに、我というものがまだ生まれない以前には、どのようなすがたをしていたかを考え、また、我がすでに死んでしまった後には、どのようなありさまになるかを、よく考えてみよう。（結局、我は無より出て無に帰するので、本然の性だけが永遠不滅である）。そうすれば、（功名富貴のごとき）、もろもろの雑念は火の消えた灰のように冷えてしまい、（本然の性だけが現われてきて）、自然に現実の相対世界を越えて、それ以前の絶対世界に逍遙することができる。

社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役社長 稲垣良次

2024. 4
No.368

『磨かれた心』

昨年までの「社長塾」を変え、企業理念を共に学ぶ会」として今年から始めました。

「塾」というのは、上の者が一方的に教える場の意があるようです。イナテック75周年を2ヶ年後に控え、イナテック50周年の時に制定したイナテック企業理念「確かな技術と磨かれた心で社会に貢献」を『社員の皆様へのメッセージ』や『イナテック社長塾』等を通して皆様に伝えてきました。

しかし、その考え方や解釈が理解されているか、最近少し疑問に思えるようになってきました。そこで課長以上の職制のメンバーで山本社長付(2S・企業理念推進担当)を司会者(ファシリテーター)として、皆様方の意見を出してもらいながら企業理念を共に学ぶことを始めた次第です。

たんでんじょうじゅうじつ

丹田常充 実

(生きていく上で丹田が常に充実し、力が満たされることが大事という意味)

ちようど月間致知の3月号にヒントになるフレーズを見つけたので、皆さんに紹介いたします。

少しでも「企業理念を共に学ぶ会」で、又皆さんご自身の参考にして下さい。

百歳の時に三十年分の仕事の材料を
買い込んでいた

平栴田中(ひらくしでんちゅう)氏

「実践実践また実践

挑戦挑戦また挑戦

修練修練また修練

やってやれないことはない

やらずにできるわけがない

今やらずしていつできる

わしがやらねばだれがやる」

「六十七は、はなたれこそぞう。

おとこざかりは百から百から」

日本鋼管創業者 浅野 総一郎 氏

勉強とは学問だけでなく仕事を通じて自分を磨くことで、その勉強に真剣勝負の心構えで臨むことが必要

ユーグレナ社長 出雲 充 氏

先輩経営者の皆さん方はよい先生について学んだり、古典や『致知』を読んだりして学んでいるのだと痛感しました。やっぱりリーダーは自らの器を磨き高めて、長期的な目線に立って勉強されているから、会社を導いていけるんですね。

スタミナ苑 豊島 雅信 氏

大切なのは一所懸命やることじゃないの。一所懸命のその先に一歩進めるか、進めないか。それも他人のためではない、自分のためなんだから。包丁でものを切ることにしたって、いっぱい切っている人には敵わないって。

誰も見ていないところで努力する。いまもトイレの掃除は毎日自分でするし、絶対に手を抜かない。これが商売なの。自主的にやるしかない。それができないのはまだケツが青い証拠なんだ。手を抜いたら明日客が一人来なくなると思って自分を奮い立たせてきたね。

いつも目を光らせてお客さんがいま何を感じているか、何をしてほしいかを敏感に察知してすぐに動く。手を抜かずにやっている、そういう感性が磨かれてくるんです。

社員の皆さん、イナテック企業理念の中の『磨かれた心』について前文を読みながら考えて欲しいのです。

『磨かれた心』の私の思いは、まず相手の人に向けてより自分自身を鍛える、律することのように思っています。つまり自分自身を修養する、鍛える、そしてそのうえで相手様のことを考えることではないかと思っています。

“心を磨きつづける”ことによって『磨かれた心』に近づいていく。それが大切なことだと考えています。もちろん利他の心も大切に

すが、自分が何もできなくて他人様のためにといつても説得力がないようにも思います。

『心を磨く』には「まあいいや」という気持ちがある。心に雑草が生えてくる。心に余裕、時間的余裕がないと、心に雑草が生えてくるようにも経験上思います。

“心の雑草”を抜くことで『磨かれた心』に近づいていく。しかし“心の雑草”は常に生えてきます。だから修養と言えないのではないのでしょうか。

努力を惜しまないこと

— 頑張ることをあきらめない人に、

心の充足感訪れる

(稲盛和夫「考え方」より)

勤勉

真面目に一生(一所)懸命に

働くという行為こそが、

人間を立派にしていきます。

苦勞する経験を避けていった人で、立派な人間性をつくり上げた人などいないはずだ。

先ほど前述の「心を磨く」「心の雑草」を常に抜く行為はやはり「真面目に一所懸命やること」しかないであって、その人が立派になるということだと思えます。

自ら一生(一所)懸命働くこともせず、身に降りかかる災難を人のせいにしてたり、社会のせいにしてたりしている人がまま見受けられるように思えてしょうがありません。

自分の境遇を変えることはできません。自らの外にばかり不幸の要因を求める限り、心のうちは永遠に満たされることはないはずだ。一方、恵まれない境遇であったとしても、勤勉に働くことさえできれば、幸せをつかむことができます。

“人のせいにする” “社会のせいにする”のが今の世の中なのですが、やはり自分事として考え実行することが大切なのです。

先日の安全衛生委員会でアドバイスさせていただいたように、建物のせいにしてたり設備のせいにしてたりしてもきりがないと思っています。そこに整備不良があれば別ですが、まずは与えられた中で一所懸命やりつくすこと、使いつくすことが極めつけ、匠の第一歩ではないでしょうか。

苦勞する経験を避けていった人で、立派な人間性をつくり上げた人などいないはずです。若いときから一生（一所）懸命に働き、苦勞を重ね、自らを鍛え、『磨いていった人』こそが、人間性を高め、素晴らしい人生を生きることができます。

「磨いた人」の条件として、

他人のせいにならない

社会のせいにならない

一所懸命、人知れず、

身を粉にして働き続けること

これらを自分事としてやれることが『磨かれた心』に近づくことと私は考えております。

菜根譚後集

九九

遇病而後思強之爲寶、處亂而後思平之爲福、非蚤智也。倖福而先知其爲禍之本、貪生而先知其爲死之因、其卓見乎。

病に遇いて後に強の宝たるを思い、乱に処して後に平の福たるを思うは、蚤智にあらざるなり。福を倖いて先ず其の禍の本たるを知り、生を貪りて先ず其の死の因たるを知るは、其れ卓見なるか。